

- 移動等円滑化評価会議北海道分科会長である北星学園大学経済学部 鈴木克典教授のゼミナールにおいて、同大学生等を対象にバリアフリー教室を開催。
- 当局営繕整備課から「北海道開発局による建築物のバリアフリーの取組み」について講義したほか、特定非営利活動法人 手と手 浅野目代表理事による視覚障がい者疑似体験などを実施。
- 学生からは「関心を持つことから始めようと思う」、「本当に知らないことはばかりで貴重な機会となった」等と感想。

開催概要

- ・日 時: 令和7年2月25日(金) 14:00~16:00
- ・共 催: 北海道開発局、北星学園大学
- ・参加者: 北星学園大学生等 15名

○次 第

- ・開 会: 「北海道開発局の紹介」
(北海道開発局開発監理部開発調査官 阪元 浩貴)
- ・講 義: 以下参照
- ・閉 会: 北星学園大学 鈴木克典教授から総括



講義概要

講義① 「北海道開発局による建築物のバリアフリーの取組みについて」

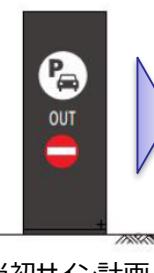
北海道開発局 営繕部 営繕整備課 課長補佐 高田 繁樹

- ・建築物関連のバリアフリー法・ユニバーサルデザインの概要について、具体的な事例を用いて分かりやすく説明。



ユニバーサルデザインの視点に立った検討の事例

- ・帯広第2地方合同庁舎の例では、UDの視点に立った庁舎整備を行うため、地域連携懇談会を設置し、提案の聴取や意見交換等を実施。



- ・検討を行った事例の一つとして、**出口にも駐車場のマークを入れていたが「間違って入ってくるのではないか」との意見により、進入禁止の表示のみとした。**



実際のサイン
(出口部)

講義② 「視覚障がい者疑似体験及び車椅子体験」

特定非営利活動法人 手と手 代表理事 浅野目 祥子 氏
移動等円滑化評価会議北海道分科会 委員



- ・視覚障がい者の介助方法等について、自らの活動経験や自身が演技指導を行った映画「こんな夜更けにバナナかよ」での体験などを通じて、学生にも興味深く説明。

※車椅子・白杖などは北海道運輸局から貸与

視覚障がい者疑似体験

自分の立場と違う人の視点を理解して、理解の幅を広げることが重要です。



- ・階段昇降前は**階段があることを、ある程度近づいてから伝える**(まだかまだか、と怖がる)。
- ・エレベーター(EV)内の鏡は、車椅子で後ろ向きにEVを降りる際の**バックミラーとなるもの**。

階段昇降体験



エレベーター乗降体験

・介助者がしてはいけない3つのこと

- ①白杖を持って指示したり、触ったりすること。
- ②言葉ではなく身体を押したり引っ張たりして誘導すること。
- ③周りに何もない場所にポツンと一人放つておくこと。